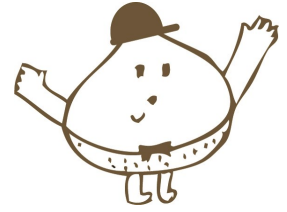


まち協通信 第47号

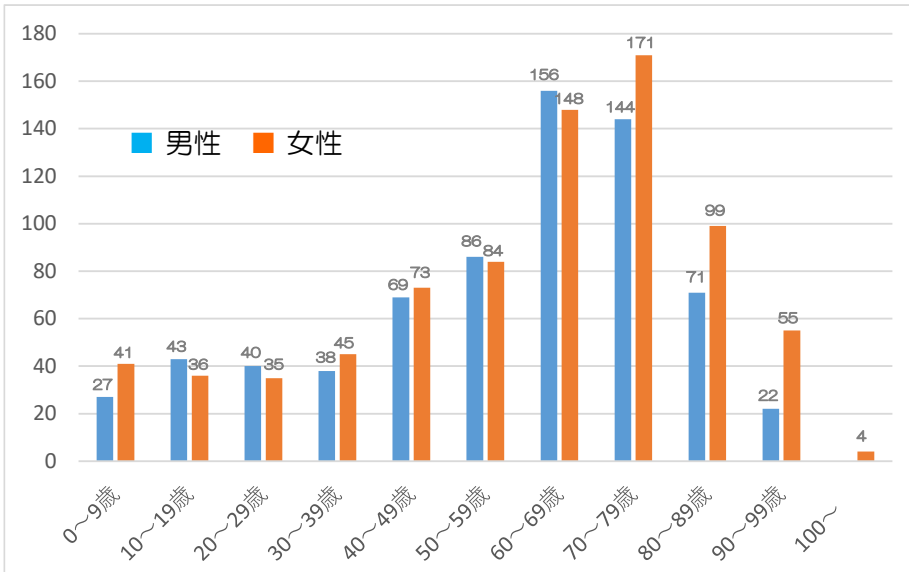


～ 経塚の案内看板を設置しました ～



前回3月2日(土)経塚までの道を舗装しましたとお伝えしましたが、看板も新しくなりました。以前の看板はボロボロになっていたため、案内に気づきにくくなっていました。

道もきれいになり、入口もわかりやすくなった崎山の史跡。お守りさんで地域の方の家内安全・無病息災を祈願するのに必要な経典があった場所です。もし行かれたことがない方がいらっしゃったら、行ってください。



崎山地区人口統計表

(令和6年3月31日 現在)

崎山地区高齢者率 50.1%



	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区
男	75	70	49	55	57	54	71	91	91	38	44
女	88	81	59	73	65	59	77	98	90	49	52
合計	163	151	108	128	122	113	148	190	181	87	96
世帯数	87	80	56	76	66	56	83	118	108	48	65

崎山地区全体 男 696名 女 791名 計 1,487名 (先月比-16名)

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる “さっきゃまびと”

・・・ 火の嶽・日嶽大明神幟の謎・・・



二引両・昇り竜の幟



片平“日の嶽神社”



火岳山“火の嶽神社”

“室町に^{ひら}壟^{むら}きし^{むら}邨を春ならむ”

今村家に伝わるこの幟。言い伝えによれば土地付き神（地主神）の幟とも云われる。今村家の前は今道家が管理しており、その前となると不明であるが、今道家と古里家が現在の敷地へ所有権変更し移転したのが明治38年（1905）9月であることから、一世紀も前のできごとである。

火の嶽大明神もしくは日の嶽大明神であったり、神社も二つと。村人にとってそれは問題ではない。村人が崇拝するのは火の岳に鎮座する“ヒノタケンカンサマ”なのである。1月・5月・9月の各28日の火の嶽祭りに今村家では新調された「日嶽大明神」の幟を立て続けている。よく見ると幟には往事を読み取れる文字と紋がある。私はそれらに幟が伝える歴史を感じてならないのです。まず一つは“揃い二つ引”紋。この門は足利将軍家や将軍家庶流、一門の家紋といわれていること。また一つは“乙名若者中”の文字。乙名とは室町時代の農村（惣村）の自治組織で名主から選ばれた役職であり、乙名ほか若者代表（または若者の中から選ばれた乙名）が幟を寄進したと読み取りたい。ただ“崎山春村”はどこなのかである。私の知りえる文献上で“崎山下村”が現れるのは永徳3年・弘和3年（1383）宇久覚公が宇久島より福江島に居を構えた年であり、崎山はまだ本村基重が支配していたものと考えている。1356-1360年に本村基重が城の辻に城郭を築いたと文献にあることから、この頃の崎山集落“邨”は上下村の区分ができるほど大集落ではなかったのではと考えている。火の岳や鬼岳方面の原野を拓き、集落を徐々に広げていったのではなかろうか。“邨”を^{ひら}壟く。崎山を^{むら}壟る。飛躍過ぎではあるが“崎山春村”とは集落が拓けつつある“崎山邨”の呼称だと考えたい。だとすれば、足利一門の本村基重が南北朝戦乱期に、戦乱をさげ崎山に移住したおり、日嶽神社に日嶽大明神と大書した^{ふたつひきりょう}二引両の下に昇り竜を描いた幟を正平11年（1356）に寄進したという伝承が事実であると言えるだろう。私は室町・戦国時代が垣間見れる崎山の文化財だと考えている。

崎山地区まちづくり協議会 事務局 集落支援員 奥野

五島市役所 崎山出張所内 TEL 0959-73-6389